

I N F O R M A T I O N

■ 附属博物館／附属ギャラリー「アートスペース嵯峨」スケジュール

<附属博物館>

- ・『京の人形展』
11月13日(火)～12月20日(木) 10:00～17:00 日曜休館
- ・『ペナントジャパン in 嵯峨嵐山』
1月9日(水)～1月23日(水) 10:00～17:00 1/15・21休館
- ・『メディアデザイン大学院生展／小原志門』
1月29日(火)～2月10日(日) 10:00～17:00

<附属ギャラリー>

- ・『OB/OG Front 展』
10月30日(日)～11月11日(日) 10:00～18:00 月曜休館
- ・『鯛天成雄／Nario Byrd TAITEN Works』
11月13日(火)～11月25日(日) 10:00～18:00 月曜休館
- ・『マイカメラ・マイスタイル・マイフォト展』
12月11日(火)～12月20日(木) 10:00～18:00 月曜休館
- ・『ペナントジャパン in 嵯峨嵐山』
1月9日(水)～1月23日(水) 10:00～17:00 1/15・21休館
- ・『めくるめくるファンタジー展』
1月27日(日)～2月2日(土) 10:00～17:00

○お問い合わせは博物館・ギャラリー課まで
TEL.075-864-7898 FAX.075-882-7770 museum@kyoto-saga.ac.jp

■ 本学教職員展覧会情報

- ・押江千衣子／油画 『森のなかで』展
12月9日(日)まで開催中 和歌山県立近代美術館(和歌山)
(田辺市立美術館、熊野古道なかへち美術館との三館合同展)
- ・芦原祚子／染織 『第20回バスケットリー展(20回記念展)』
11月22日(木)～11月27日(火) すみだリバーサイドホールギャラリー(東京)
『第20回バスケットリー展 伊丹巡回展』
12月12日(水)～1月14日(月) 伊丹市立工芸センター(兵庫)
- ・吉引ありさ／染織 『代謝する普遍と変容 彷徨』
11月1日(木)～ 清流館
- ・内海福博／日本画 『創画展』
11月3日(土)～11月18日(日) 京都市美術館(京都)
- ・西野陽一／日本画 『個展』
11月7日(水)～11月13日(火) 大丸京都店 美術画廊(京都)
- ・松尾恵／講義部門(アートイベントの企画を担当) 『stay with art 2007 「交差」』
11月10日(土)～11月11日(日) HOTEL T'POINT(大阪)
(10日(土)19～21時のオープニングパーティーにて、京都嵯峨芸術大学・短期大学部在学生によるパフォーマンスグループ「爆破温泉」がパフォーマンスを実施)
- ・加藤明子／造形学科 『加藤明子展』
11月13日(火)～11月18日(日) ギャラリーマロニエ(京都)
- ・入佐美南子／油画 『第92回二科京都展』
12月2日(日)～12月10日(月) 京都市美術館(京都)
- ・猪熊桂子／日本画 『第39回 日展』
12月15日(土)～2008年1月14日(月) 京都市美術館(京都)
『猪熊桂子・橋村誠人 2人展』
2008年1月30日(水)～2月5日(火) 京都高島屋画廊(京都)
- ・吉水絹代／染織 『JTC沖縄展「テキスタイルの未来形」』
12月18日(火)～12月25日(火) 那覇市民ギャラリー(沖縄)
- ・林潤一／日本画 『目』展
12月19日(水)～12月25日(火) 京都高島屋画廊(京都)

■ 京都嵯峨芸術大学公式サイトのご案内

「KSUA ART PROJECT」始動!
京都嵯峨芸術大学公式サイトにて
最新の大学情報をご覧くださいませ。
<PC> http://www.kyoto-saga.ac.jp

こちらのQRコードを使って、
携帯サイトにアクセスする
ことも出来ます。



■ 大学行事予定

連続公開講座
「京の美意識」スケジュール

- 「都と提灯のかかわり」11月17日(土)
高橋康二<高橋提燈(株) 代表取締役社長>
- 「伝統と現代」12月8日(土)
藤間勘吾<舞踊家>
- 「やきもの・破壊から生まれる形」
2008年1月19日(土) 寄神宗美<陶芸家>
- 「型絵染ー私の制作」2008年2月23日(土)
伊砂利彦<型絵染作家>
- ※いずれの回も14:00～
有響館G401教室にて(無料)
詳細は文化事業部まで。
TEL.075-864-7898

あらし山びこスケジュール

本学図書館の児童書コーナー「あらし山びこ」設置を機会とし、近隣の小学生や児童を対象に開催するイベント「あらし山びこ」。毎回テーマを決めて、そのテーマにまつわる絵本の読み語りや、お話などを地域の方と交流しながら展開します。

- 11月10日(土) 時間：13時30分～
落合直也「講演会ー絵本との出会いー」
場所：京都嵯峨芸術大学 有響館4F G401教室
- 12月8日(土) テーマ「食」
○ 2月9日(土) テーマ「立春」
時間：13時30分～
場所：京都嵯峨芸術大学附属図書館 児童書コーナー

行事予定(11月～12月)

- 11月9日(金)
理事会・評議員会
- 11月23日(金)～24日(土)
嵐芸祭(学園祭)
- 11月23日(金)
同窓会ホームカミングデー
- 12月24日(月)
授業終了
- 12月25日(火)～1月6日(日)
冬期休業

京都嵯峨芸術大学広報

第 22 号
2007年10月29日発行

編集●京都嵯峨芸術大学 総務課 広報室
発行●学校法人大覚寺学園京都嵯峨芸術大学
〒616-8362 京都市右京区嵯峨五島町1番地
TEL. 075-864-7859
FAX. 075-881-7133
info@kyoto-saga.ac.jp

京都嵯峨 芸術大学 広報

KYOTO SAGA UNIVERSITY OF ARTS PUBLIC RELATIONS

Contribution

京都嵯峨芸術大学 客員教授就任記念シンポジウム

「ジョー・プライスとの対話」要約



News

2006年(平成18年)度 収支決算報告
2006年度進路概況
教育後援会報告
社会人特別研修生(科目等履修生)制度
オープンキャンパス報告
第6回「京都嵯峨野文化サロン」開催 ほか

Topics

教員・在学生の活躍

300年前の能舞台を改装／「制服祭」「七夕祭」が今年も大盛況／広報誌『嵯峨芸術』発行!／地元地域での活躍 ほか

特別講座



Information

附属博物館／附属ギャラリー
展覧会スケジュール
本学教職員展覧会情報
京都嵯峨芸術大学
大学行事予定
公式サイトのご案内



京都嵯峨芸術大学 客員教授就任記念シンポジウム 「ジョー・プライスとの対話」要約



2007年4月より、伊藤若沖をはじめとした江戸絵画のコレクターとしても国際的に名高いジョー・プライス氏に、京都嵯峨芸術大学大学院の芸術研究科で客員教授にご就任をいただくことになりました。去る5月22日に開催された客員教授就任記念シンポジウムでは、本学教授の佐々木正子先生が進行役となり、プライス氏の妻である悦子・プライスさんに通訳をご担当していただきました。本学学生をはじめ一般の方をあわせた約450人にお集まりいただき、大盛況のもと終了しました。今後プライス先生には年に数回特別講義などを開催していただく予定で、プライス先生の日本美術に対する熱情とご見識が本学の若い学生に素晴らしい刺激となり、大きな成長の契機になってくれることを願います。

現在、アメリカ・南カリフォルニア在住のプライス氏は、江戸絵画の世界的なコレクターでありながら、とりわけ江戸中期の画家・伊藤若沖(1716～1800年)については日本人研究者に先駆けて研鑽を積み、若沖研究の第一人者として知られています。折しもシンポジウム開催日は京都市上京区の相国寺・承天閣美術館で伊藤若沖の展覧会『若沖展』が開催されているさなか。同展に出品されていた若沖の作品へと話題や関心が集まりましたが、今回のシンポジウムではプライス先生が著名建築家のフランク・ロイド・ライト氏より学んだ、自然物の持つ素晴らしさとその再構築による創作物の生み出す美について、日本美の特性や本質を、対話を通して明らかにするというテーマのもとに進行しました。

(以下、S—佐々木先生、P—プライス先生)

S—若沖の『釈迦三尊像』と『動植綵絵』が120年ぶりに再会した承天閣美術館での『若沖展』をご覧になられたわけですが、どのような感想をお持ちになりましたか。

P—20年前に『動植綵絵』の『菊花流水図』と仏画3点を別々に鑑賞したときには思いも至らなかった発見をしました。今回、若沖の33幅を一度に見て、個々の作品が独立しているのではなく、ひとつの作品が別のひとつにつながり、33幅が関係を築きあって、全体としてひとつの世界を描き出していることに気が付いたのです。どれか1点が欠けてもだめなのです。

『動植綵絵』30幅は法隆寺金堂に安置されている『釈迦三尊像』に供える世界として若沖は描いたのだらうと確信しました。

S—若沖の墨絵と色絵、それぞれにプライス先生が感じられる魅力は何でしょうか。

P—若沖は、色絵、墨絵の両方で卓越した手技を持っています。筆致の勢いを生かした墨絵の魅力もさることながら、特に色彩に関しては、ほかの画家を寄せ付けません。テクニックを飛び越えて、若沖にしか表せない特異な色の組み合わせで、人間の技とは思えない世界を表現している点で特別な人です。

S—絵画鑑賞に際して、美術館などのフラットな人工光の下ではなく、自然光の下で見るというこだわりを持っているそうですが、それはなぜですか。

P—若沖の作品は人工の強い光を当てられることを意識して描かれていません。太陽の光、月の光、ろうそくの光などの自然光を通じてのみ、彼が当時見ていた本当の色が再現され、絵画の本質が見えてくるのです。鑑賞させていただいた相国寺『若沖展』での『黄檗山万福寺境内図』は、光の当て方を工夫することによって、月夜の万福寺、明け方の万福寺と変化を鑑賞することができ、絵に奥行きを感じさせてくれました。西洋絵画では、モネが『わらのつめあと』という十六連作で、一点一点を違う光の下で描き、変化を表現していますが、若沖をはじめ江戸絵画の画家たちは、一点の絵の中にさまざまな自然光の変化を受け入れ幾通りにも変化させるのが大きな特性です。また彼らの「あるがままを受け入れる」姿勢は、モチーフ選びにも表れています。日本文化を支える重要な柱のひとつ生け花の世界では、傷んだ葉、虫の食

った葉は美しくないと取り除かれてしまいがちです。例えば若沖の絵画に見える葉は、穴が開き、虫の食べた跡まであり、ときに枯れて、黄色になっている葉もあるのです。若沖は仏教の教えを忠実に守っていました。彼にとっては花も、虫の食べた葉も、「等しく生きているもの」であり、あるがままの自然を描くという点では、「等しく美しいもの」だったのです。

S—自然の持つ生命観を見事に表現しながら、若沖の絵は写生そのものというわけでもありませんね。若沖は対象にいったい何を見ていたのでしょうか。

P—英語では、絶対的な存在である神は「God」と、頭文字の「G」を大文字で表します。若沖にとって自然は「Nature」と大文字の「N」で書くべき絶対的な存在、神であり、尊重すべきものだったに違いありません。畏敬の念をもって対象物に迫り、存在感を写すことで、自然美がダイレクトに鑑賞者の心に響いていくのではないのでしょうか。単に写実的な冷たい観察者の目では引き出せない生命感が、若沖の絵には息づいているのです。こうして描かれた自然美は、ときに技巧を超えた美を生むことがあります。日本のアーティストに共通して見られるのは、自然の本質は残しながらも、必要でないものはすべて省き、最小限の材料で美しいものをつくりあげていくことです。これこそが日本人の持つ優れた美の再構築能力だと私は考えています。

S—日本の造形分野では、コンピューターを使った表現が得意とされています。コンピューターが開く絵画鑑賞の新たな可能性について、どのようにお考えですか。

P—例えば、当時の顔料の成分を解析し、正確に再現することができるでしょう。実際には当てられないさまざまな光の変化をシミュレーションすることも可能です。自然光でも、日中の光も、ダイレクトに差す光、雲間からのぞいたときの光で違いがあります。その微妙な違いをコンピューターで調べることによって、デリケートな日本絵画の鑑賞を分析したいと思っています。S—若沖の絵には仏教的思想の影響が見られるとおっしゃっていますね。精神世界から問いかけてくるものが、彼の作品に西洋絵画とは違った美をもたらしているということでしょうか。

P—私は、若沖の絵に見られる仏教観に琴線を触れられたわけではなく、あくまでも美しさだけを求めてコレクションしたに過ぎません。西洋絵画では、対象のオブジェクトが画家にとってどんな存在であるかということに主眼が置かれます。ところが、日本絵画、特に

江戸絵画では、オブジェクト自身が何であるか。石なら石、木なら木のなかにある美を一所懸命に描き出そうとしています。私は、日本絵画のそういう思想がたいへん好きなのです。

S—最後に、日本画を学んでいる学生に勉強のベースにしてほしい点と、私たちが日本人として大事にすべきことをメッセージとしてお願いします。

P—江戸絵画のような繊細で機微に富む絵は、日本人にしか描けない作品です。こういった絵をたくさん描いてほしいですね。そして何より一番大切なのは、自信をもって自分自身を出すことです。日本の人は外国からいろいろなものを柔軟に受け入れて文化を育んできましたが、ひとつ入ってくるたびに、二つを捨てるというような習性もあるのではないのでしょうか。日本には、日本人にしかできないものづくりがあり、そういったいいものを継承してきた伝統が文化として存在しています。伝統文化は日本人の顔として大切に、残すものはきちんと残すという意識を強くもってもらいたいと思います。

プライス氏の日本美術に対する熱情と深い見識が学生諸君の知的好奇心と造形力を刺激する大きな成長の契機となることを祈念し、プライス氏を客員教授として迎えた本学の使命として、今後も同様のシンポジウムを重ね、日本文化、日本芸術の未来を築いていきたいと考えます。



プロフィール…1929年、アメリカ・オクラホマ州生まれ。オクラホマ大学卒業。江戸絵画の国際的コレクターとして、ロサンゼルス・カウンティ・ミュージアムに日本館を設立するなど、日本美術を世界に紹介した多大なる功績により2006年度国際交流基金賞を受賞。氏の名前を冠した巡回展『プライスコレクション 若沖と江戸絵画』が日本各地で開催された。

NEWS				NEWS			
理事会報告				大学報告			
2006年（平成18年）度 収支決算報告				教職員異動（退職者報告）			
2006年度の決算は下記「別表1.消費収支計算書」と「別表2.資金収支計算書」のとおりとなっています。いずれも、科目は大科目で表示しており、それぞれの計算書を企業会計に置き換えると消費収支計算書は損益計算書、資金収支計算書はキャッシュフロー計算書に該当します。				事務局・学生部キャリア支援課課員 佐野恵子さんが退職されました。（2007年8月31日付）			
消費収支計算書（別表1）及び資金収支計算書（別表2）について。2006年度収支決算の概要は消費収支計算書を中心に説明し、資金収支計算書で補足説明します。[消費収支計算書]				2006年度進路概況			
○消費収入の部 ・学生生徒等納付金は、決算額16億2千279万円。予算と比較すると291万円減少しました。 ・手数料は、決算額2千874万円。入学検定料が主なもので他に華道免許等申請手数料があり、予算と比較すると100万円減少しました。 ・寄付金は、決算額643万円。資金収支計算書の寄付金収入の数値と差異が生じていますが、これは資金収支計算書では現物寄付金は、寄付金収入として計上できないからです。 ・補助金は、決算額1億6千19万円。国と地方				昨今の就職状況として、景気は上向いており、事実求人件数も一時に比べると増加しています。求人の傾向として年々ネットによる求人やエントリーが増加しており、本学としても文章指導、面接指導などに加えて、ネットによる効果的な求職活動やエントリーシートの書き方を強化しています。統計上就職希望者が少ないのは、デザイン事務所等への就職は当初アルバイトとして採用される場合が多いため就職希望者に計上されないことや、芸術系大学特有の進路として、卒業後もアルバイトを続けながらの作家活動や工房等への弟子入りなど、時間をかけて夢を実現させることを目指す学生も多く見られるためです。本学では多様な進路に対応し、易きに流されることなく確固とした進路への意識を高めることができるよう、キャリアアドバイザーの設置や講演会、個別面談指導の充実など個々人に応じた決め細やかな指導を徹底しています。			
※「別表1」　＜消費収支計算書＞ 2006年4月1日～2007年3月31日　（単位　千円）				※「別表2」　＜資金収支計算書＞ 2006年4月1日～2007年3月31日　（単位　千円）			
消費収入の部				収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異	科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金	1,625,709	1,622,792	2,917	学生生徒納付金収入	1,625,709	1,622,792	2,917
手数料	29,759	28,750	1,009	手数料収入	29,759	28,750	1,009
寄付金	6,600	6,434	166	寄付金収入	5,600	5,250	350
補助金	172,471	160,197	12,274	補助金収入	172,471	160,197	12,274
資産運用収入	1,629	2,077	△ 448	資産運用収入	1,629	2,077	△ 448
事業収入	12,778	13,584	△ 806	事業収入	12,778	13,585	△ 807
雑収入	47,862	48,331	△ 469	雑収入	47,862	48,331	△ 469
帰属収入合計	1,896,808	1,882,165	14,643	前受金収入	694,775	682,850	11,925
基本金組入額合計	△ 487,463	△ 468,518	△ 18,945	その他の収入	30,950	38,381	△ 7,431
消費収入の部合計	1,409,345	1,413,647	△ 4,302	資金収入調整勘定	△ 752,402	△ 756,412	4,010
				前年度繰越支払資金	2,087,375	2,087,375	
消費支出の部				収入の部合計	3,956,506	3,933,176	23,330
科 目	予 算	決 算	差 異				
人件費	1,159,674	1,158,305	1,369	支出の部			
教育研究経費	572,568	545,708	26,860	科 目	予 算	決 算	差 異
管理経費	173,764	168,162	5,602	人件費支出	1,162,809	1,162,485	324
借入金等利息	28,396	28,395	1	教育研究経費支出	349,212	323,659	25,553
資産処分差額	4,212	4,211	1	管理経費支出	164,049	158,453	5,596
徴収不能引当金繰入額	6,413	6,413	0	借入金等利息支出	28,396	28,395	1
徴収不能額	11,680	11,680	0	借入金等返済支出	436,528	436,528	0
予備費	(11,395)			施設関係支出	31,186	27,405	3,781
	8,605		8,605	設備関係支出	19,585	19,377	208
消費支出の部合計	1,965,312	1,922,874	42,438	その他の支出	39,418	37,248	2,170
当年度消費支出超過額	555,967	509,227		予備費	(3,720)		
前年度繰越消費支出超過額	2,232,704	2,232,704			16,280		16,280
基本金取崩額	0	44,578		資金支出調整勘定	△ 43,708	△ 48,592	4,884
翌年度繰越消費支出超過額	2,788,671	2,697,353		次年度繰越支払資金	1,752,751	1,788,218	△ 35,467
※差異の欄の△は増額を示す。				支出の部合計	3,956,506	3,933,176	23,330
							※差異の欄の△は増額を示す。
OCTOBER 2007		4					

大学報告			
教職員異動（退職者報告）			
事務局・学生部キャリア支援課課員 佐野恵子さんが退職されました。（2007年8月31日付）			
2006年度進路概況			
昨今の就職状況として、景気は上向いており、事実求人件数も一時に比べると増加しています。求人の傾向として年々ネットによる求人やエントリーが増加しており、本学としても文章指導、面接指導などに加えて、ネットによる効果的な求職活動やエントリーシートの書き方を強化しています。統計上就職希望者が少ないのは、デザイン事務所等への就職は当初アルバイトとして採用される場合が多いため就職希望者に計上されないことや、芸術系大学特有の進路として、卒業後もアルバイトを続けながらの作家活動や工房等への弟子入りなど、時間をかけて夢を実現させることを目指す学生も多く見られるためです。本学では多様な進路に対応し、易きに流されることなく確固とした進路への意識を高めることができるよう、キャリアアドバイザーの設置や講演会、個別面談指導の充実など個々人に応じた決め細やかな指導を徹底しています。			
芸術学部			
進路内訳	2006年度 卒 業 者 数	人数(人)	比率 %
	就職決定者数	127	57
	就職未定(活動を継続する意志のある者)	57	44.9
	進学(大学院・四大編入学・研究機関等)	11	8.7
	本学大学院	2	1.6
	専門学校	8	6.3
	各種受験準備(公務員・教員・資格等)	3	2.4
	アルバイト	2	1.6
	家事手伝	21	16.5
	制作活動または弟子入り	0	0.0
短期大学部	制作活動または弟子入り	6	4.7
	就職しない(「就職見込みあり」を含む)	0	0.0
	海外留学	16	12.6
	不明(最終「進路調査書」の提出なし)	0	0.0
		1	0.8
進路内訳	2006年度 卒 業 者 数	人数(人)	比率 %
	就職決定者数	283	79
	就職未定(活動を継続する意志のある者)	79	27.9
	進学(四大編入学・大学院・研究機関等)	31	10.9
	本学専攻科	19	6.7
	専門学校	46	16.3
	各種受験準備(公務員・教員・資格等)	9	3.2
	アルバイト	4	1.4
	家事手伝	59	20.8
	制作活動または弟子入り	0	0.0
短期大学部	制作活動または弟子入り	8	2.8
	本学研究生(専攻科のみ対象)	3	1.1
	就職しない(「就職見込みあり」を含む)	3	1.1
	海外留学	18	6.4
	不明(最終「進路調査書」の提出なし)	2	0.7
		5	1.8
※進路内訳数(人)÷卒業生数＝比率(%)			
		5	

オープンキャンパス報告



第3回夏のオープンキャンパスが8月3日(金)から8月5日(日)までの3日間、第4回秋のオープンキャンパスが9月23日(日・祝)に開催されました。それぞれ大学キャンパス内にて制作体験や模擬授業、実技・構想表現講習や作品展示、さらに校舎屋上から見渡せる嵐山の風景見学が盛り込まれたユニークなキャンパスツアーなど、京都嵯峨芸術大学を受験生に深く知っていただける機会となりました。もちろん各実習室ではオリジナルTシャツやシルバーリングの制作、さらに桂川では友禅流しのデモンストレーション、また保護者対象の大覚寺見学会も実施するなど、様々なイベントが行われました。

今年より京都駅から大学へのシャトルバスを運行し、多くの受験生に活用していただくことができました。第3回オープンキャンパスでは3日間で高校生474名、保護者232名、合計706名、第4回オープンキャンパスでは1日で高校生135名、保護者74名、合計209名の参加者がありました。



大学報告		
中国政府派遣 研究員の受け入れ	第6回「京都嵯峨野 文化サロン」開催	学園創立40周年 記念事業について
今年度10月から、中国政府派遣研究員の周乃林氏が来日されています。本学芸術学部日本画研究室の箱崎睦昌教授を指導教官とし1年間の予定で、日本画制作とあわせて日本画と中国画の比較を研究されます。		1971年（昭和46年）に創立した本学園は、2011年に学園創立40周年を迎えます。理事会は本年4月に三好郁朗学長のもとに40周年記念事業室を設け、増田洋理事が担当理事として室長に就任されました。事業室では、大学キャンパス整備事業、学園史編纂事業、記念事業募金、記念式典の4つの事業を推進していきます。記念誌編纂事業室に関しましては、既に昨年4月に先行して立ち上げ準備作業に入っています。また本年6月には、教職員の中から指名された5名の委員により建設委員会が設置され、本学のキャンパス整備計画実現に向けての検討に入っています。
海外研修報告		大蔵会報告
	今年で第6回目となる「京都嵯峨野文化サロン」は、「音で奏でる『源氏物語』の世界」をテーマに、9月29日（土）、大覚寺にて開催しました。約550名の参加者を迎え、盛会に終えることができました。第1部は園田学園女子大学教授福嶋昭治氏による「『源氏物語』の音楽」をテーマにした講演、第2部は雅楽師の東儀秀樹氏による雅楽の演奏と朗詠をご披露いただきました。福嶋氏の講演はユーモアに溢れ、ぜひまた聞きたいという声が多数寄せられました。また、東儀氏の演奏は虫の音がする夜の幻想的な大覚寺の中で参加者を魅了し、その雅な光景はまるで平安時代にタイムスリップしたかのようでした。「京都嵯峨野文化サロン」では、今後も地域にちなんだ企画を提案し、現代人の美意識に合った新しい文化や芸術をここ嵯峨野の地から発信していきます。	9月15日（土）の午後、本学及び高野山大学、種智院大学が当番校となり、京都仏教各宗連合会主催の大蔵会（だいぞうえ）を開催しました。本会は1915年（大正4年）に大正天皇ご即位を記念して大蔵経の展観をはじめた京都大蔵会を起源とし、本年で92回を迎える伝統あるものです。主な出席者は加盟大学15校の代表者や宗教部関係者、学生等で30数名でした。会場となった大覚寺では、午後2時から法供養をおこない、その後場所を京都国立博物館に移して、赤尾栄慶氏（京都国立博物館企画室長）による講演、さらに博物館で開催中の後宇多法皇御入山700年記念「大覚寺の名宝」展を見学しました。
今年度の夏期休暇を利用して、2つの海外美術研修が実施されました。ひとつはアートシーンにて世界的に注目されており、2年に一度開催されるイタリアのヴェネチア・ビエンナーレ展、さらに10年に一度の周期で開催されるドイツのミュンスター野外彫刻プロジェクト展などの視察旅行で、21名の学生が参加しました。国際的な現代美術に、とても刺激を受けました。もうひとつのマカオ世界遺産研修には、22名の学生が参加しました。世界遺産の持続的な継承と管理について地元関係者の方から研修を受け、多くの現地の学生と交流し、さらに発表会を実施するなど、充実した5日間を過ごしました。		
OCTORBER 2007	6	

教員・在学生の活躍

300年前の能舞台を改装

今年で鎮座1200年を迎える兵庫県宍粟市山崎町・八幡神社の能舞台（1699年の建立）が、約300年ぶりの大改修を施すことになりました。入母屋造り三間四方の本舞台に、後座・地謡座・橋掛りを備え、鏡の間を兼ねた約18坪の楽屋を併設する立派な能舞台です。この改修を期に、舞台鏡板を新たに制作することの依頼が本学短期大学部准教授杉山真由美先生（山崎町出身）にあり、先生が原画を制作されました。檜板への作画は受託事業として本学が協力することになり、非常勤講師の富澤千砂子先生と本学大学院生2名が担当しました。9月1日には竣工祭ならびに重要無形文化財保持者の方々による薪能が行われました。



「制服祭」「七夕祭」が今年も大盛況

恒例の「制服祭」が6月22日に学生ホールで行われました。昨年から軽音楽部が中心となり、約200名の学生を集めて盛り上がりました。また7月6日、七夕の前日に催された「七夕祭」も盛況で、学友会を中心としたメンバーの協力により無料の模擬店などを出店。本学の中庭を中心に学内外の約500名が集い、大いに賑わいました。

広報誌『嵯峨芸術』発行！

このたび京都嵯峨芸術大学の広報誌『嵯峨芸術』の創刊号を紀要委員会による企画・編集のもと発行いたしました。今年から客員教授に就任されたジョー・プライス先生のコレクションでもある伊藤若冲の作品を表紙にあしらった、A4版型の大胆なデザインが特徴です。プライス先生と佐々木先生の対談をはじめ、観光デザインの仕事や「オー!マイキー」のビジュアルデザインに関するページなど、ビジュアルブックさながらの充実した内容となっています。



地元地域での活躍

地域で催される祭りやイベントにおいて、本学教職員や学生も様々な形で関わり、活躍し、着実な評価をいただいています。8月23日から26日の4日間、恒例行事となっている「愛宕古道街道灯し」が行われ、柴田潤教授を中心とした学生グループが、地域のひとと共に制作し、大小様々な行灯の約300基が、夜の闇を照らした。また、9月23日から25日の3日間、大覚寺で催された「観月の夕べ」では箏曲部による琴演奏や、彫刻分野の学生による作品展示、前述の学生グループによる行灯設置などで協力しました。9月27日から30日は、「京都太秦シネマフェスティバル」が開催され、本学からも江村准教授や、坂上教授を中心とした観光デザイン学科の学生が「大映通りブランドショップ」企画や「映画美術の世界～作家 西岡善信～」における店舗の内外装、ポスターの企画で盛り上げました。

国内公募展などで
在学生や卒業生が活躍

関西をはじめ、国内の各公募展において本学の在学生や卒業生が多数受賞し、活躍しています。

○「2007京展（彫刻部門）」（京都市主催）・京展賞／奥田耕司（大学院1回生）※その他多数の学生が入選。

○「TOKYO illustration 2007公募」（東京イラストレーターズ・ソサエティ主催）・銅賞、山口はるみ賞（審査員特別賞）／三尾あづち（短期大学部卒業生）

○「トーキョーワンダーウォール公募2007」（東京都主催）・大賞／永島千裕（芸術学部卒業生）

○「山陽バスラッピングのデザイン公募」（山陽電鉄（株）主催）・優秀賞／岡田考博（芸術学部観光デザイン学科3回生）

○「神戸ビエンナーレ・ユニバーサルデザインポスターコンペティション」（神戸ビエンナーレ組織委員会主催）・入選／岡田考博（芸術学部観光デザイン学科3回生）

○「きょうと食育ネットワーク・マスコミキャラクターデザイン公募」（きょうと食育ネットワーク主催）・デザイン採用／大野元久（芸術学部観光デザイン学科4回生）／伴麻紗子（芸術学部造形学科4回生）

特別講座

特別講座報告

特別講座は、社会の第一線で活躍されている方をお招きし、各界での潮流や、旬の情報などを講演していただく学生、一般の方へむけた講座です。2007年6月から10月にかけて下記の講座を開講いたしました。

○6月26日 「Drawing! 青木京太郎の世界」(青木京太郎:アーティスト)

○6月26日 「観光デザインで輝く観光産業の未来」(田川博己:JTB専務取締役)

○10月5日 「絵画におけるフォーマットと精神性 母袋俊也 自作に沿って」(母袋俊也:アーティスト)

○10月9日 「アンドレアスとフレデリカの場所で」(アンドレアス&フレデリカ:クリエイティブユニット)